

～ 佐世保の新しい歩き方 ～

1. 路地裏の魅力。

まちには様々な道が走っています。またそれらは、幹線道路から歩行者専用の小さな路地まで様々な表情を持っています。幅員や行政的な位置づけも大きく影響しますが、他にも道の使われ方、沿道の土地利用、歴史的な成り立ち、地形との関係、一方通行か対面通行か、歩行者専用なのか、観光ルートなのか通学路なのか、様々な要素が道路の性格を決めています。

その中でも特に小さな道である「路地」に着目すると、「路地」はまちの日常の風景を映し出す場所であることが分かります。

「路地」と言えば、自動車も入って来れないような小さな道や階段や坂などを思い浮かべますが、現在も残っている路地の中には昔から手付かずのまま使われている道が多く、街道や神社やお寺を結んでいたり、歴史的にも深い場所も多く存在します。そこでは、ちょっとしたモノが置かれていたり、バンコに座る人がいたり、ちょっとした井戸端会議が見られたり、という毎日の暮らしが営まれています。

ここはヨソモノにはちょっと入りにくい、しかし地元の人にとっては自分の家の居間に等しい、居心地の良い空間であると思います。モノが置かれたり、屋根が増築され張り出していることも見ることはできますが、まちの人に路地が使われていることが分かります。

路地裏はまちの中でも特に、まちの人が使いやすく、まちの個性がにじみ出す場所であることが分かります。



1. 路地裏では打ち水したり、自分の庭のように大事に使う人も多くいます。
2. 狭く暗い雰囲気もありますが、太陽の位置によって光の表情が幾度となく変わるのも路地裏の風景のひとつ。
3. 路地裏ににじみだして置かれた植物やバンコなどもあります。
4. 家並みが揃う歴史的な街路の多くは路地にあたります。

今度は、ヨソモノの目線で路地裏を観察してみます。路地裏を歩く時、ちょっと足を止めて周りの風景を見回してみると、その路地裏の風景は一步ごとに変化していることが分かります。路地から見え隠れし、道を曲がることに異なった風景が現れ、隙間から別の風景がのぞき、突然視界が開ける。路地裏はそんな風景の連続が存在する場所です。

変化する風景

幅員の狭い路地は道沿いの建物が風景の構成要素として大きく影響します。建物のファサードであったり、生け垣だったり、空間ごとにその表情を変えていきます。

期待させる風景

路地の多くは建物に遮られ、歩く人の視線は限定されます。限られた視界で見るその道の先にはどのような風景が広がっているのか、人は期待感を抱きます。

焦点となる風景

細い路地は人の焦点を絞り、その先にあるものに視線は集中します。そこに特徴的なものがある時、そこは特別な風景になります。

異質な風景

路地沿いに塀が連続しているときなど、塀が途切れて入り口があったり、庭が出てきたり、単調な風景に刺激が与えられます。

開ける風景

狭く限られた視界から突然広い視野が開ける。風景の広がり急激な変化は開放感や感動へとつながります。



～ 佐世保の新しい歩き方 ～

2. 佐世保の路地裏を考える。

長崎県佐世保市は明治の海軍鎮守府設置以降、まちは急速に発展し、現在もSSKや米海軍基地があり、その面影を残しています。街中にも佐世保がこれまで積み重ねてきた歴史の中で洗練され、流行り廃りではない、佐世保の個性として今でも残っているものがあります。

路地裏もそのひとつ。山と海に囲まれた小さなまちにはたくさんの坂道と路地が張り巡らされています。いまや佐世保の名物ともなったガイジンバー街も、細い路地にお店が集中して存在し、独特の雰囲気を出していることも人気の1つだと考えられます。

そのような佐世保ですが、現在、人の流れはアーケードに集中しており、面的な拡がりがないことも課題のひとつです。また、現在の佐世保港がPR21計画により、大きく変わろうとしています。もともと佐世保市は港町でありながらそのほとんどがSSKや米海軍の土地が港の大部分を占めており、市民が開かれた港は多くありません。今後は、佐世保が積み重ねてきたまちと、新たな拠点となる港の結びつきが重要になってくると考えられます。

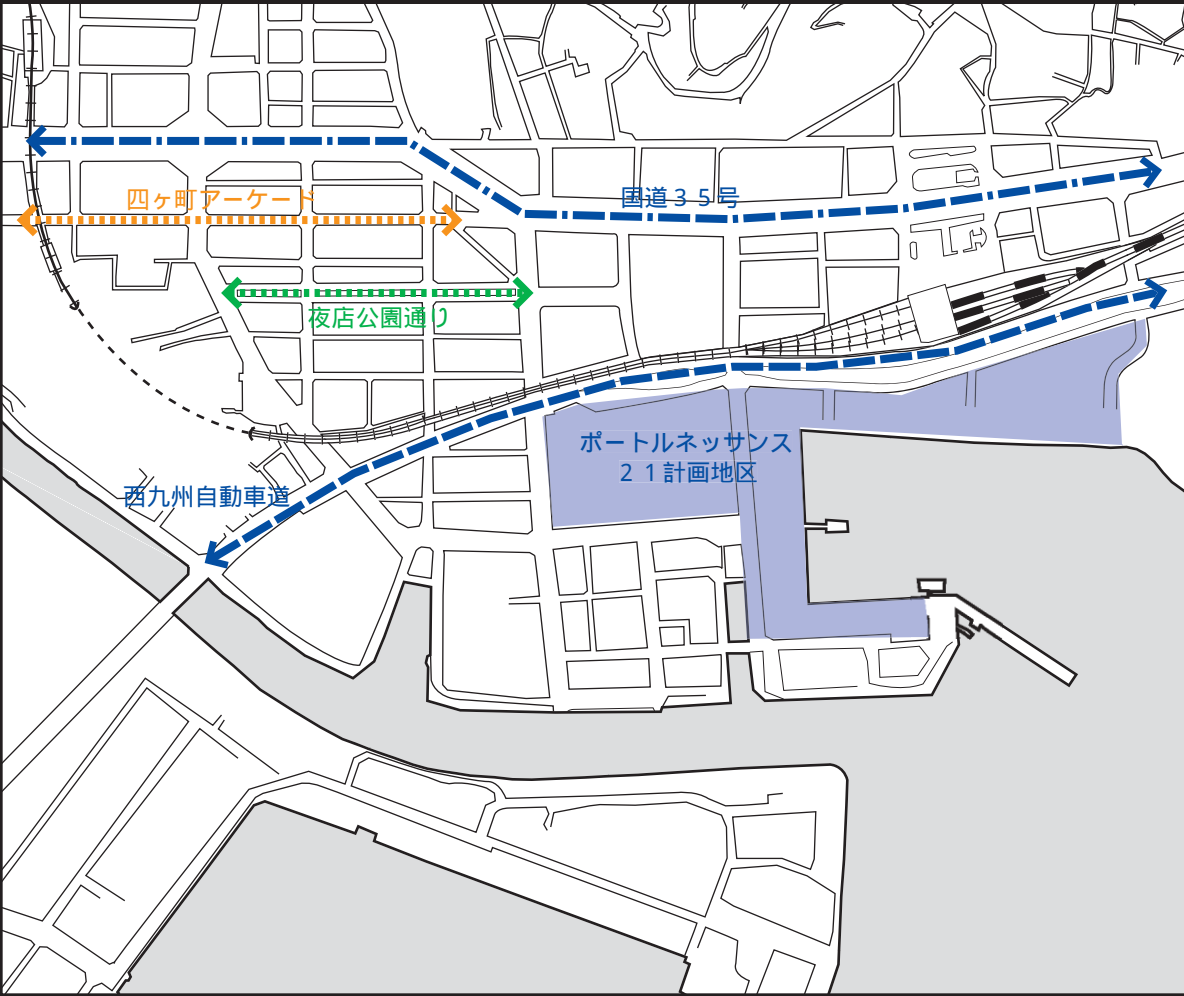
現在分断されたまちとみなとを繋ぐことができれば、佐世保はさらに魅力的になると考えます。そこで、「路地裏」を利用してまちとみなとを繋いでいきます。



1. ガイジンバー街は戦後より続く佐世保らしさのひとつ。道端に置かれたイスや建物の外壁、ネオンサインなどもひとつひとつお店のこだわりが見られます。

2. 夜になるとネオンが付き、ガイジンバー街が賑わいます。昼の顔と夜の顔がまったく違う路地です。

3. 佐世保にある平戸往還。斜面住宅地にある路地もひとつの佐世保の風景です。



佐世保の現況。

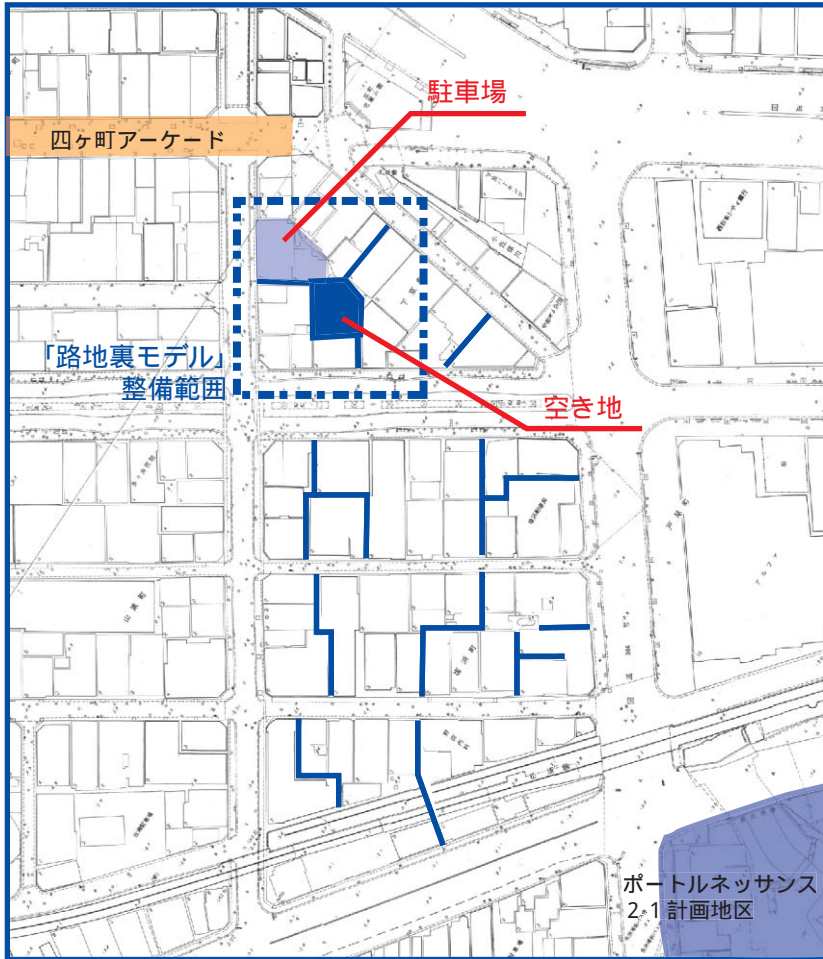
1. 横の軸が強い
人通りの多いアーケードや幹線道路である国道35号、松浦鉄道など南北方向の人の流れがほとんどであり、「まち」と「みなと」を行き来するような東西の軸があまり見られない。

2. 高架により分断された「まち」と「みなと」
松浦鉄道の高架橋や、現在整備中である西九州自動車道の高架、拡幅された道路により、「まち」と「みなと」が分断されている。

～ 佐世保の新しい歩き方 ～

3. 路地裏ネットワークの形成。

路地裏を歩いて得られるような、楽しい歩行体験でまちとみなとをつなぎます。そのために、年をおって路地裏のネットワーク化が形成されるように計画します。



路地裏モデル設計コンセプト

『真似したくなる“しつらえ”』

この模型は最初に作られる『路地裏モデル』。みんな（お店の人たちなど）が真似したくなる“しつらえ”がそこにはあります。

最初に作られる『路地裏モデル』では舗装やひさしや樹木、オープンスペースのファニチャーなどを整備します。

その“しつらえ”は、みんな（お店の人たちなど）の簡単な工夫で真似できるものです。EX) 店前のひさし、店前へのイスやプランターのあふれ出し

5年後

舗装・ひさし・樹木などの整備
移動販売車などが来れるような
スペースを設ける。

「路地裏モデル」のひとつが作られる。

10年後

いろいろな路地で店舗の工夫
（ひさし等により）「手作りの路
地裏」ができ、つながっていく。

複数の「路地裏」が出来、繋がっていく。

15年後

まちから広がっていく「路地裏ネット
ワーク」がみなとまで届く。
まちからみなとまで路地裏を楽しみ
ながら歩けるようになる。

「路地裏ネットワーク」で
まちとみなとが繋がる。

デザインのポイント

- ・路地裏に各通りの性格を滲み出させている
- ・路地裏に接する店舗の中の回遊性
- ・路地裏と中央の広場の屋根 回廊
- ・駐車場と広場を分ける一本の木

